

## 有人潜水調査船「しんかい6500」 1,000回潜航について ～潜航開始のお知らせ～

海洋研究開発機構（理事長 加藤康宏）が運用する有人潜水調査船「しんかい6500」※1は、有人としては世界最深の潜水能力を持ち、平成2年6月の初潜航以来 17年間にわたって運用を行ってきました。本日、この「しんかい6500」が下記の通り1,000回目の潜航を開始しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 「1,000回目の潜航について」

(1) 潜航開始時刻：10時15分

(2) 海域：沖縄県石垣島沖鳩間海丘（[図1](#)）

(3) 予定最大深度：1,530m

(4) 乗船者：

（パイロット）佐々木 義高（ささき よしたか）

（コパイロット）小椋 徹也（こむく てつや）

（乗船者）[山根 一真](#)※2（[やまね かずま](#)）

(5) 潜航目的：

「しんかい6500」運航チーム要員の育成、慣熟のための訓練潜航を行います。また、今回の訓練に併せて、当機構の広報活動の一環として、ノンフィクション作家の山根一真氏が乗船し、潜航を体験します。この潜航の様子は、3月28日に予定されている講演会（詳細、[※2参照](#)）で報告される予定です。

#### 別紙：

※1：[（参考資料 1）](#) 有人潜水調査船「しんかい6500」について

※2：[（参考資料 2）](#) 乗船者 山根 一真氏について

[（参考写真） 平成19年3月14日に行われた、999回目の潜航の様子](#)

---

（参考資料 1）

平成19年3月15日  
独立行政法人海洋研究開発機構

### 有人潜水調査船「しんかい6500」について

#### 1. 仕様等

- 全長：9.5m、幅：2.7m、高さ：3.2m
- 空中重量：25.8トン
- 最大潜航深度：6500m
- 乗員数：3名（パイロット2名、研究者1名）

- 耐圧殻内径：2.0m（直径）
- 通常潜航時間：9時間
- 建造費：約125億円
- 運用費：約5億円／年
- 年間潜航回数：68回（平成17年度実績）

## 2. 特徴

- （1）専用の支援母船（「よこすか」）による運航により、科学的調査の確実な推進
- （2）有人潜水船による最深潜航記録を18年間保持
- （3）取得した深海画像・映像を公開
- （4）パイロット・副パイロット2名による運航方式による安全運航
- （5）潜水船と支援母船間の音響画像伝送技術を確立

## 3. 主な成果

年	月	成 果	潜航番号
1986年		基本設計開始	
1987年	5月	建造開始	
1989年	1月	着水（三菱重工業神戸造船所）	
	8月	総合海上試運転にて潜航深度6527mを記録	
1990年	4月	皇太子殿下をお迎えして竣工式典開催（東京 晴海）	
	6月	静岡県伊東沖水深5mにて沈降試験	1
1991年	5月	調査潜航開始（日本海奥尻海嶺 水深2727m）	48
	7月	三陸沖日本海溝にて世界最深の冷水湧出帯生物群集（ナギナタシロウリガイ）を発見（水深6364m）	63
		三陸沖日本海溝海側斜面にて新種好圧菌（ <i>Moritella japonica</i> DSK1）の発見（水深6500m）	64
		三陸沖日本海溝海側斜面にて海底の裂け目（マネキン頭部）を発見（水深6270m）	67
1991年	8月～11月	太平洋北フィジー海盆にて初の海外調査（日仏共同STARMER計画）実施：延々と続く枕状溶岩の海底を撮影（水深1970～3900m）	73～100
1992年	6月	琉球海溝にて新種好圧菌（ <i>Shewanella violacea</i> DSS12）の発見（水深5118m）→2003年世界初の好圧菌ゲノム解析を終了、発見に伴う論文は現在100本以上	123
	10月	伊豆・小笠原の鳥島沖にて鯨骨生物群集を発見（水深4037m）	148

	11月	マリアナトラフ熱水活動域にて黄金色のアルビンガイ撮影（水深3604～3630m）	155
1994年	6月～11月	大西洋中央海嶺と東太平洋海膨にて調査潜航（MODE'94）実施 ：大西洋中央海嶺TAG熱水マウンドにて大規模熱水活動の撮影 ブラックスモーカーに群がるツノナシオハラエビの大群（水深3632～3710m）を撮影 ：ガラパゴスハオリムシを撮影（水深2634m） ：東太平洋海膨にてユノハナガニの抱卵シーンを撮影（水深2606～2652m）	201～260 216～230 217 239 254
1995年	10月～11月	太平洋マヌス海盆にて潜航調査実施 ：ホワイトスモーカーと金色のチムニーを撮影（水深1708m）	294～308 301
1997年	6月	三陸沖日本海溝にて多毛類生物を発見（水深6360m）	373
	7月～9月	東太平洋海膨にて海底長期観測（リッジフラックス計画）実施	375～398
1998年	6月～11月	大西洋中央海嶺と南西インド洋海嶺他にて調査潜航（MODE'98）を実施 （7月）リスボン海洋博に参加 （9月）インド洋で有人潜水船として初めての潜航 （10月）南西インド洋海嶺にて熱水噴出活動の兆候確認（水深2692m） →2000年8月「かいこう」により熱水噴出活動発見 （11月）南西インド洋海嶺にて新種の巨大イカを発見（水深1055m～5362m） （ミズヒキイカの仲間とヒゲダコの仲間を撮影）	415～468 444 456～457 460～468
1999年	8月～9月	ハワイ諸島周辺海底火山調査潜航実施 ：海底火山口イヒ周辺にて枕状溶岩撮影（水深2460～4821m）	490～518
2001年	12月～2月	南西インド洋海嶺及びインド洋中央海嶺調査潜航実施	643～665
2002年	7月～8月	ハワイ諸島周辺海底火山調査潜航実施	686～715
	10月	インドネシアジャワ島南西沖調査潜航実施 ：地震の痕跡と思われる断層撮影（水深2092～2102m） ：インドネシア大統領メガワティ氏訪船	716～728 719

2003年	3月	毛利宇宙飛行士、南西諸島にて潜航調査 (水深6500m)	733
2004年	5月	沖縄トラフにて深海底下堆積物中に液体二 酸化炭素プールを発見(水深1370~1385 m)	822
	7月 ~9月	太平洋大航海「NIRAI KANAI」調査の中心 として活躍 : 東太平洋海膨海域にて世界最大の海底溶 岩流(340km <sup>2</sup> 以上)を発見(水深3024 m)	828~859 834
2005年	12月	相模湾にて生きたままの深海生物を「シャ トルエレベータ」により捕獲に成功(水深 1215m)	914
2006年	1月 ~2月	インド洋中央海嶺にてスケーリーフットの 生態を深海底の熱水活動環境において観察 (水深2420m~3394m)	928~937
2007年	3月	第1000回潜航	

- 乗船研究者数：延べ806人(第993回潜航まで)
- 撮影映像数：写真21万枚、ビデオ約3700本

---

(参考資料 2)

山根 一真氏 について

ノンフィクション作家。

宇宙航空研究開発機構嘱託、中央教育審議会専門委員(文部科学省)、宇宙開発委員会(文部科学省)特別委員などを歴任。現在執筆中である、日本のモノづくりの底力を解き明かす「メタルカラーの時代」(『週刊ポスト』連載)では、有人潜水調査船「しんかい6500」も取り上げられた(平成12年9月15日号)。

平成19年3月28日(水)16:00~17:00には、東京港晴海埠頭の晴海客船ターミナルホールにおいて、「有人潜水船による深海調査の成果と展望」と題し、「しんかい6500」乗船での得がたい体験や深海調査への期待を映像の紹介もあわせて講演する予定。

---

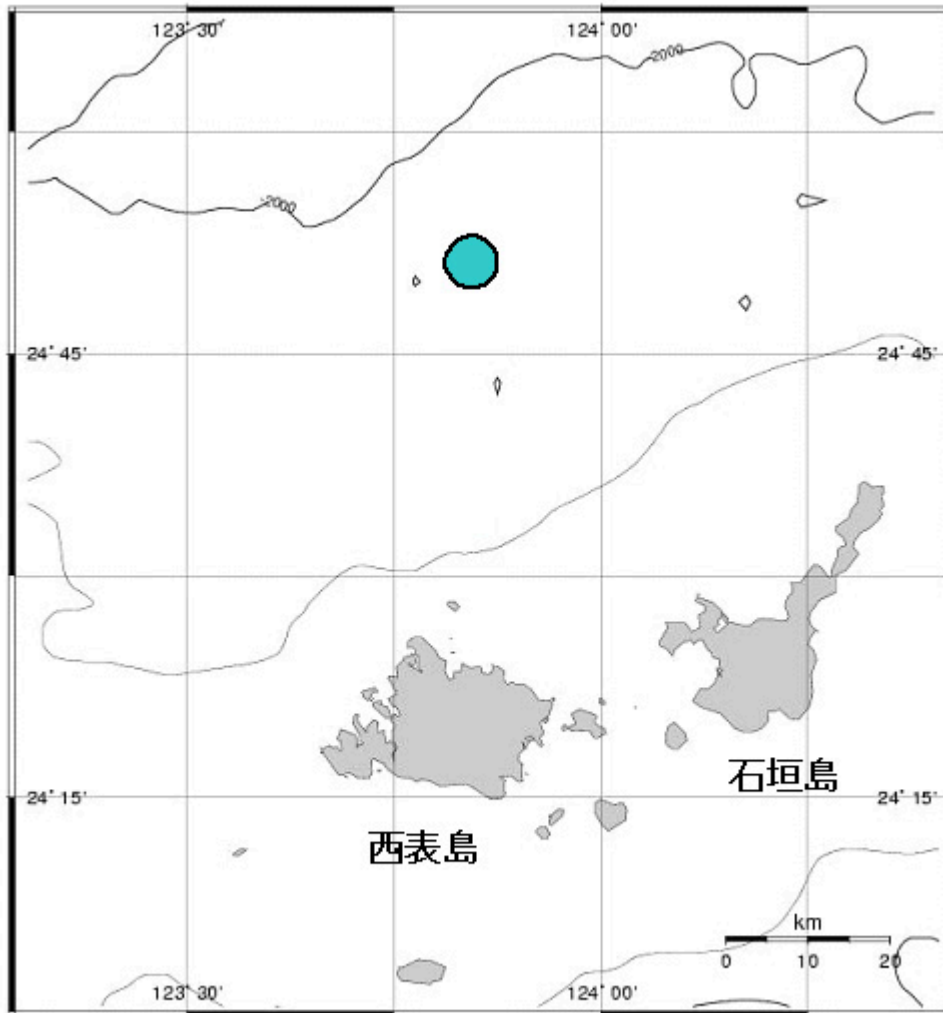
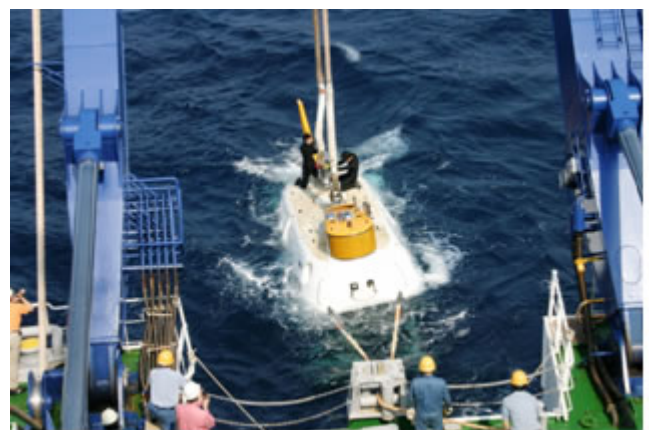


図 1 (鳩間海丘海域図) 石垣島の北北西 約50km付近  
 24°51.5'N、 123°50.5'Eを中心とする半径1マイルの範囲

平成19年3月14日に行われた、999回目の潜航の様子 (参考写真)



(写真1：着水前の様子)



(写真2：着水後の様子)



(写真3：浮上直後の様子)



(写真4：船上への揚収の様子)

<お問い合わせ先>

(潜航について)

海洋工学センター 運航グループリーダー 内田 徹夫 電話：046-867-9910

(本報道について)

経営企画室 報道室長 大嶋 真司 電話：046-867-9193